



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail: daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3マツイ・ビル 201 TEL: 06-6354-3011

「満月四人組デカン高原の旅Ⅱ 冬の裸群 ②」

読者諸氏よ。われは問う。

1. 口をあんぐり開けてだらしなく爆睡している読者諸氏。
2. 活発に家事や仕事に打ち込む読者諸氏。

どちらが本物のあなたですか？

「生き生きと、何かに打ち込んでいる私こそ本来のワタシだわ」

「両方が、本物のオレだよ」

と答える読者諸氏が正しい。だが、わが輩の哲学では、

《眠っているときの私が本物で、目覚めているときの私は本物ではない》

眠っているときは何も求めない。ところが目覚めた途端に何かが欲しくなる。必要以上に物を持つとする。執着する。そして苦しむことになる。

だから本物の私に戻るためには、まず物を捨てる。

ブランドの鞆を捨てよ。衣服を捨てよ。パンツも捨てよ。その前に家族を捨てよ。真っ裸になれ！徹底的に捨てる则ジャイナ教の「行者」になる。

次は瞑想によって心を捨てよ。

心に二つある。夢を見ない心（レム睡眠）と、夢をみている心（ノンレム睡眠）である。瞑想で、夢を見ない心に至ると本当の自己（ジーヴァ）になる。靈魂のようなものだ。徹底的に深まるとジャイナ教の「聖者」になる。

聖者とは、持たない、動かない、心が作用しない人のことである。つまり、

＜物と心を捨てる则、人は肉体という“物”になる＞

（そんな人がいるの？ 疑うことなかれ、われらは会ったのだ）

われら四人組は昨夜の疲れもいとわず早起きした。

空港近くのマンション街の一角に、ジャイナ教寺院が建設中である。そこに十二人の裸の行者が集結するという。

遠くからなら写真撮影が許されるというので、カメラをかまえて今か今かと待ったが、行者が現れない。この時期のデリーは寒い。さらに小雨が降ってきた。ゾウリ履きのわが輩の足元が冷えてきた。時間もない。

「雨が降ってきたので行者の臨席が遅れるそうだ」

縁がなかったのだとわが輩は諦めた。せめて待機場所だけでもと思いい車で移動した。団地のような建物の3階に行者はいた。たまたま信者が降りてきてダルシャン（謁見）が可能だと言った。

(本当かい！わが輩は小躍りして喜んだ。全く稀有な体験だよ！)

十畳ほどの部屋に入ると、台座に座る一人の行者がいた。

(おう、素っ裸だ！)

わが輩は感激のあまり床に額をつけて礼拝した。そして泉庵の女将に注意した。

「台座に触れてはいけない」

これはわが輩の経験則によるものであった。

「大魔王、あの女性は触れているよ」

泉庵がいうので女性信者を見ると台座に触れていた。ここからわが輩のジャイナ教に関する誤解と偏見がガラガラと崩れていった。わが輩は白衣派に比べて裸形派はもっと厳格だと思っていた。恐る恐る聞いた。

「あの～写真を撮ってもいいでしょうか？」

にこやかに微笑んだ行者は、なんとポーズまで取ってくれたではないか。

「その払子は何ですか」

孔雀の羽でできていて、座るときに蟻を踏まないように履くものだと気軽に説明してくれた。さらに二人の行者が加わった。

(もう、裸のオンパレードだよ。何だかエキサイトしてきた！)

彼らは僧位の低いもので、さすがに長老さまには会えないだろう、と思ったが、その先入観も見事に崩れた。行者に案内されて別の部屋に移ると八十五歳の長老がいた。ちょうどトイレから出てきたところで寒さに震えていた。信者がゴザをかけてあげたのが印象に残った。

泉庵が接足して敬意を表した。すかさずわが輩は聞いた。

「まさか直接足に触れなかったでしょうね？」

触れたわよ、泉庵がこともなげに言ったので、わが輩は嘆いて思った。

(この罪深きものよ！)

実は女性信者も御足に触れていたのだ。またまたわが輩の誤解であった。

(ええい！ これじゃ何でもOKじゃないか)

それから一緒に写真を撮ったり談笑したり、さらに行者が iPhone でわれらの写真を撮ったりで全く無礼講の世界になった。

これではジャイナ教の行者の面目がたたない。そこで苦行の面を紹介しておかねばならない。彼らは一日に一度だけ立ったままで食事を摂る。茶碗やスプーンを使わない。水も一日に一回だけ飲む。(太り気味な読者諸氏よ。真似ができるかな？)

車に決して乗らない。裸のまま数千キロでも歩く。髪の毛は剃るのではなく、一本一本引き抜くのだ。眠るときは布団もなく手枕だ。

それに何の意味があるのだと訝る読者諸氏よ。ならば問う。

なぜ意味のないものが二千五百年も続くのか、その意味を考えてみることに意味がある、とわが輩は考えるが、読者諸氏よ、如何に。